

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 9月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0572608990
法人名	有限会社 ゆう愛
事業所名	グループホーム サンピア
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字熊野118番地1号 (電話) 0187-84-3589
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 21年 9月 3日

【情報提供票より】(H21年8月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	18人 常勤 16人, 非常勤 2人, 常勤換算 17.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 12日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	66歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団杏真会 高橋医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

羽州街道をささみ北側にある当ホームは、周囲を高校、警察署、小学校等に囲まれた静かな住宅地にある。2ユニットのホーム内は明るく、広いリビングがあり、利用者は自宅にいるような安らぎを感じることが出来る。運営者は管理者を兼ね、ホームの運営に関する事柄にも迅速に対応している。また、利用者の居室には地上デジタル対応型テレビが据付けられているなど、利用者がより楽しめる環境づくりに努めている。「笑顔、やさしさ、ゆとりある生活を共に生きる」という理念の基で、職員は笑顔を絶やさず、利用者と楽しく触れあいながら支援しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善課題として挙げられた項目はなかった。管理者及び職員は、外部評価の意義について理解している。</p> <p>管理者はサービス評価の意義や目的を職員に伝えている。今回は各ユニットの主任・副主任及びホーム長が自己評価を記入し、管理者が取りまとめて作成した。評価で見出された課題について会議、ミーティング等で協議している。今後は具体的な改善計画を立て、その計画に沿って取組みの状況を把握していくことが望まれる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。当ホームでは利用者の日常生活、サービスの実態等をスライドで紹介している。会議で取り上げられた検討事項、懸案事項等に関して、それを活かした取組みを行ったことを報告している。事例として、他の委員から防災に関して地域の協力と救急に対する申し出を頂いたことなどがある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月1回、家族に利用者の生活状況、金銭管理の状況等手紙にしたため郵送している。春・秋には利用者の日常生活を記載した広報を発行し、家族に報告している。運営推進会議や利用者との面会時に意見、不満、苦情等を聞く機会を設けている。運営に関する決まりごとの変更時には前もって連絡し、家族等の了解を得たうえで実施している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>当ホームは地域の一員として町内会等の活動に積極的に参加している。お祭り、盆踊り、高校での福祉祭りには利用者と共に参加し、地元の人々と交流する場面を造っている。</p>

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、「笑顔、やさしさ、ゆとりある生活を共に生きる」という理念を掲げている。利用者との触れあい、地域との優しい交流を第一とし、安心した暮らしが継続できるよう努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、全職員は理念を良く理解しており、日々の実践の中で活かしている。全職員はミーティング等で理念を確認し、さらなる意識の高揚に努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは地域の一員として、町内会等の活動に積極的に参加している。お祭り、盆踊り、近くの高校での福祉祭りには利用者とともに参加し、地元の人々と交流する機会を作っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を職員に伝えている。今回は各ユニットの主任・副主任及びホーム長が自己評価を記入し、管理者が取りまとめて作成した。その結果をミーティング等で話し合い、サービスの向上に努めている。		評価で見出された課題に対し、改善に向け取り組んでいるが、今後は具体的な改善計画を立て、その計画に沿って取り組みの状況を把握していくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一回の頻度で運営推進会議を開催している。当ホームでは利用者の日常生活、サービスの実態等をスライドで紹介している。取り上げられる検討事項、懸案事項等について、その経過を報告している。又、委員からは率直な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>決められた届け出の書類の提出、運営に関する情報を得る等で町職員とともにサービスの質の向上に取り組んでおり、担当者が変わった時などは町職員の見学もある。</p>		
4.理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、家族に利用者の生活状況、金銭管理の状況等を手紙にしたため郵送している。又、春と秋には利用者の日常生活を記載した広報を作成し、家族に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や来訪した家族等との接触時に意見、不満、苦情等を聞く機会を設けている。また、運営に関する決まりごとの変更時には前もって連絡し、家族等の了解を得たうえで実施している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と家族等の信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要であるとしている。やむを得ず異動する場合は、引継ぎ等で詳しく気配りをし、利用者に納得いただけるよう最善の努力をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉、人材センター、グループホーム連絡会等で開催される研修に参加している。ホーム内の研修も年6回ほど行われている。研修後は会議等で報告し、研修報告書を回覧して共有化に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修などを通じて、相互訪問等を行っている。学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等が当ホームを見学することから始めている。ケアマネジャーとの連絡も密にしながら、自宅に出向いたり、遊びに来てもらったり等を繰り返しながら、環境やペース配分などを考慮し、徐々に慣れてもらうような雰囲気作りを工夫している。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員は利用者が人生の先輩であるということを理解している。一人ひとりの能力、体力、経験等を一緒に過ごしながら把握するよう努めている。利用者に教えてもらう関係づくりのため、普段からセッティングや声掛け等を工夫しながら、喜怒哀楽を共にし支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々のかかわりの中で利用者に声を掛け、思いや意向の把握に努めている。言葉や表情から一人ひとりの思いを受け止めるようにしている。又、意思疎通が困難な方には行動や表情、生活歴等から汲み取り把握している。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員で意見交換をし、利用者主体の暮らしを反映した介護計画になっている。又、本人や家族の要望を聴き、その意見を活かした介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行っている。日常の動作の変化など、見直しが必要な時はご家族や本人等と話し合い、計画の見直しを行っている。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人の外出や宿泊、訪問等の希望や、家族の状況や要望を基にして臨機応変に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への対応は本人や家族の希望とするかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。又、協力医療機関も適切な対応がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いまままでに重度化や終末期を迎えた事例がなく、マニュアル等の整備はされていないが、今後は家族の希望を取り入れていく方向である。		終末期に関わる対応指針を定め、事業所が対応し得るケアのあり方について、全職員が周知し、共有していくことが期待される。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに見合った言葉掛けに気配りをしている。本人の誇りやプライバシーを損ねるような言動は見られなかった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の気持ちを尊重し、個別に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意思や気持ちを大切に、材料の下ごしらえ、テーブル拭きや茶碗拭きなど、利用者の力量に合わせて食事作りに参加できるようにしている。又、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるような雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	一人ひとりの希望、体調に合わせて入浴支援を行っている。入浴時は職員も付き添い、コミュニケーションを密にし、楽しんで頂くよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りの手伝い、花の水散布、ホーム内の掃除、洗濯、散歩、買い物等、利用者の力量に合わせ、得意分野で活躍していただいている。職員は感謝の言葉を伝えながら、利用者が生き生きと過ごせるような場面づくりをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や本人の気分、希望に応じて外出をする機会を多く作っている。季節を肌で感じてほしいという願いから、春、夏、秋と季節毎に外出行事を企画し、出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。近所の人にも理解を求め、利用者が一人で外出した際には声かけや電話で連絡して頂く関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災に対する避難訓練を春・夏の年二回行い、全職員が避難の方法を身につけている。また、消防署の協力を得て、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。</p>		<p>災害については地震、水害等の対策についても検討していくことが期待される。また、昼夜を問わず、利用者が避難する際の地域との協力体制等を整備していくことも望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、利用者個々の栄養バランスについて把握している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は広く、明るく居心地がよい。空調設備のほかにトイレや浴室には換気扇を設け、不快なおいは感じられない。又、玄関には季節の花を飾り、季節感を演出している。居間には外出時のスナップ写真を飾り、利用者の楽しい思い出を大切にしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室には地上デジタル対応テレビが据え付けられている。タンスや日用品は利用者の好みに合わせて設置し、それぞれの生活スタイルを作っている。利用者の馴染みのものは程よく持ち込まれ、空間を広く取って居心地のよい居室となるよう配慮している。</p>		

は、重点項目。